

令和5年度 学校評価 重点目標

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や地域との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の充実 	
項目担当	重点目標	具体的方策	留意事項
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の充実 ・校内掲示板や広報活動の充実 ・PTAなど関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を定期的に行い、よりよい環境で仕事ができるよう努める。 ・見やすい学校だよりや校内掲示を作成する。 ・PTAとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の安全点検を徹底し、生徒や職員がよりよい環境で過ごすことができる。 ・部だよりなど重複した内容がないか、必要な情報は何か精査する。 ・見やすく、親しみやすいレイアウトにする。 ・教頭と連携を図ってPTAの運営がスムーズに行えるようにする。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化の充実 ・校内支援システム活用の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、個別の指導計画作成において、自立活動の目標を明確にし、指導、評価につなげる。 ・学習内容の連続性・系統性を検証し、指導内容表に反映するとともに具体的指導や評価をまとめる。 ・出席簿等の運用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にもって指導し評価を行う。 ・その結果を次の指導の改善に生かせるようにする。 ・個別の指導計画（目標及び通知表）の様式の変更を含め検討する。 ・他校の情報を収集し、情報部と連携を図りながら進める。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・防災、防犯体制の充実 ・いじめ、不登校の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス12コースの安全管理、運行の適正化に努める。 ・交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・防災、防犯体制を周知し、共通理解、意識向上を図る。 ・職員で共通理解を図り、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時や地域や保護者から得られた情報に対し、速やかに対応をする。 ・添乗職員との連携を密にする。 ・各種交通安全指導を行う。 ・定期的、随時の登下校指導を行う。 ・自転車安全利用モデル校として一宮警察署と連携し、自転車のルール、マナーの意識向上を図る。 ・各種訓練の反省を生かしながらマニュアル等の見直し・改訂を行う。 ・いじめ防止基本方針を周知する。 ・情報収集に努め、年3回または随時のいじめ不登校対策委員会を実施する。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板等の情報発信を充実させ、ニーズに応じた情報を提供して、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・職員に対しての本校進路指導の流れの周知、ビジネスマナーの確認等の機会を設ける。 ・他分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 ・雇用予定のある企業を積極的に開拓し、生徒に合った職域の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から保護者が進路指導全般に対する見通しがもてるよう、部や進路希望に沿った最新の進路情報の提供や、内容の精選に努める。 ・児童生徒が見やすい、職員が活用しやすい進路情報の提示をし、新着情報を充実させる。 ・市町の福祉課や、関係諸機関との連携を密に行う。 ・対象生徒に対して的を絞った開拓、幅広い仕事内容の提案ができるよう、具体的な目的を提示する。

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。 ・メンタルヘル스에課題を抱える児童生徒に対し、校内の関係職員や学校医・外部の関係機関などと連携して対応にあたる。 ・食物アレルギーのある児童生徒に対する適切な給食提供や対応について全教職員間で共通理解を図る。 ・児童生徒の健康観察を徹底し、異常がみられた場合の対応を周知し安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・全職員による学校施設設備管理の充実を図り、安全できれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営計画の充実を図る。 ・関係校務との連絡を密にし、居場所づくりや悩みについて調整を図る。 ・諸問題に柔軟に対応をし、連絡調整を確実に行う。 ・チームで対応できる体制づくりを図る。 ・全児童生徒の毎朝の健康観察を徹底し、担任や保護者と連携を図り、心身の健康の充実を図る。 ・管理場所の安全点検に加え、清掃と消毒も取り組められるようにする。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究が円滑に進むようにする。 ・本校が会場となる研修会を効率よく実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用した授業実践例を集め、日々の授業に活用できるようにする。職員全体が ICT 技術を向上できるように、研究日を活用して実践していく。 ・市内の初任者研修や異校種等研修など本校で実施する研修会について、管理職、他校務と相談の上で実施方法や受入人数などを再考する。
視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室を児童生徒、職員が利用しやすい環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・閲覧スペースの環境整備を行う。 ・新しい図書を購入し、児童生徒の指導に役立つ図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい機器を調査し、購入計画を立てる。 ・全職員が等しく有効に活用できる図書の選定と紹介をする。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能及びセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・GIGAスクール構想によるICTの活用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用タブレットパソコン等の利用について、有効的な活用方法を提案するとともに、トラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部棟との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。 ・児童生徒一人1台タブレット端末の利用環境や利用規定を整備する。 ・学校HPを更新し、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ意識をより高めるために、定期的に情報提供や注意喚起を行う。 ・情報部職員が自己研鑽に努める。
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで解決が難しい問題に対して、チームで解決を図れるような体制を整える。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぼば相談や支援指導検討会、巡回相談等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係教職員や校外の専門機関と連携しながら支援を進めていく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に利用し、専門的な支援を受けられるようにする。 ・ケース検討を重ねたり、知識を共有したりして、相談担当者のスキルアップを目指す。 ・「支援の手引き」を活用する。

自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に関する情報の収集と発信 ・学習指導支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高め、保護者への理解と協力を求める。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるよう紹介する。 ・チェックシート、流れ図、個別の年間指導計画の作成手順を共通理解し活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板や職員・保護者向けの通信を活用し、情報を発信する。 ・自立活動勉強会（じかつラボ）において、職員が興味・関心をもてるような勉強会を計画、実施する。 ・教材・教具について情報収集したり、開発したりし、指導に有効活用できるようにする。 ・現職研修やじかつマニュアルで周知するとともに、関係職員と情報共有してより活用しやすいものになるよう検討する。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容を部会、学年会、ケース会等で振り返りや共有をすることで、指導方法を検証しながら、様々な指導方法を確立していく。運動量の確保についても留意する。 ・安全な学習環境整備を図る。 ・健康上、行動特性上の配慮を要する児童の情報共有を確実にを行う。 ・職員間の報告・連絡・相談を徹底する。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の育成及び社会生活を営む上での基礎的な能力の向上 ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等の育成を家庭と連携を密に図りながら、学校生活全般を通して指導する。 ・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、ICTを始めとした教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を継続的に取り入れながら授業の中で一人一人が「かがやける場面」を設定し、自己有用感や自己肯定感を高めることで主体的に活動できるようにする。 ・生徒自身が扱いやすく、また、「やってみよう」と思えるような教材・教具の開発に努める。 ・日々の連絡帳でのやり取りや懇談会等を通して情報の共有を図りながら家庭と学校の両方で支援できるようにする。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を実現する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて、生徒一人一人の課題や適性に沿った支援を進める。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態把握に努め、授業や学校生活全般をとらえて障害特性や自立活動の目標に沿った段階的・継続的な支援を進め、基本的な生活習慣や社会生活を送るための基礎的な力を高める。 ・コロナ禍で培った経験や工夫を生かして行事等の見直しやICT機器の活用を進めることで、生徒の学習意欲や興味・関心を高め、主体的に学ぶ力、課題を解決する力の育成に努める。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある安全・安心な学校づくり ・卒業後を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進 	